

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第58号 2019年8月21日発行

+++++

今年の作物への被害は、気象、虫害、野生獣害が重なり、最悪です。何もかも大半が食べられてしまいました。それでも雑穀の生育は良好で、キビは登熟、アワ、ハトムギおよびモロコシは開花中です。ヒエとシコクビエも近いうちに開花するでしょう。来年、雑穀見本園は道の駅近くに移動して維持するとして、縄文の山畑はついに耕作放棄することにし、ワラビの採集地になります。野菜作りは大方諦めて、野生動物が好まないネギ類、豆類に限定するかと思案しています。

運転能力の加齢的劣化を感じて自動車をやめたので、重い収穫物を混んでいる中央線で持ち運ぶのはかなり大変です。この様子を話をする、都会の人々は気の毒そうに笑います。しかし、少しも笑い事ではなく、野生獣も人間も命がけの生業です。電気柵などの対処療法ではもう治療できないほどに、人気の少ない山里に野生獣は順化し、食害に及ぶのです。衰退した山里に人が戻らない限り、いずれ（すでにか）野生獣は街にも出没するようになるでしょう。生業や農山漁村で地道に働くことを貶めた日本の現代文明社会の陥穽というのでしょうか。今年の自給率は天候不順の1993年並みに落ちこむようです。

植物腊葉標本の他、写真スライドなど、図書を整理しています。これらを利用していただくと嬉しいです。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければ幸いです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人にぜひ広く転送伝達していただくとありがたいです。

○報告

雑穀街道の普及

1) 相模原市緑区では雑穀街道を世界農業遺産に申請する方向で、4年間の普及啓発計画を立てていただきました。

雑穀街道普及会はさらに雑穀栽培者と賛同者を増やすように、再度、日本村塾（民族植物学・自給農耕ゼミ）の活動を活発にして、雑穀街道地域における在来作物の普及・啓発に協力したいと思います。雑穀街道普及会にご参加くださり、ご協力をお願いします。

2) FAO 世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道普及会』の資料を充実しました。トランジション・タウン小金井の梶間さんと意見交換し、連携を依頼しました。

雑穀街道に関する趣旨説明や植物と人々に関する自然誌・文化誌の講義など、博物館担当研究員が無償出張で行いますので、ご連絡ください。

3) 推薦書を書いていただけるように専門家3名の方をお願いしました。中込さんからの報告では、タイのラダワン先生は環境学習の場として評価して下さるように書いてくださるそうです。

○予定

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：2019年8月30日、9月6日、13日、20日ほかの予定（原則金曜日）です。

植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしくお願ひします。

ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。森とむらの図書室（小菅と藤野）では順次資料の整理をし、蔵書リストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。

細川邸は高価旅館として営業を始めました。何名の学生会員が下宿していた長屋門はレストランになったようです。

2) 極小展示（準備中）：ヨーロッパの観光旅行で集めた小物工芸品

2. 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。特に、家族農業（小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン）について学びたいです。このネットワークには個人で賛同し、ホームページに意見を掲載していただきました。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

沼津の興農学園農場の歴史を知って、これと重なる日本村塾の意義を再確認しました（詳細はエッセイに書きました）。

3. 雑穀街道普及会

賛同者を広く募っています。FAO 世界農業遺産申請に向けて賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。

FAO 世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いいたします。

また、普及作業を一緒にしてくださるとありがたいです。

下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。

ご確認の上で、賛同の意思表示をお寄せいただければうれしいです。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletesn/jnmpilvil.html>

4. 民族植物学ノオトは次の第13号からは電子出版のみにする予定ですが、いつでもご寄稿を歓迎します。

①南アジアの植物信仰、②憲法を考える（4）、自然権・食料主権、加筆修正私案、③まねごと山村農などを準備しています。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。

国会図書館にも全号所蔵されています。さらに国会図書館のオンライン資料に URL を登録します。

バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。

会誌ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

5. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえ、自由に書いています。「第10章バングラデシュとスリランカ」を公開しました。

今は、アッサム・エリアについて、文献を探し、読み、まとめています。

『日本雑穀のむら』は第5章中部地方の雑穀文化複合、補論3 副食主菜の起源を検討しています。

『第四紀植物』および“**Essencals of Ethnobotany**”はまだ非公開ですが、栽培植物の起源の進化植物学、伝播の民族学などを書き進めています。これらは、下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで読めます。

『環境学習原論—人世の核心』（2019）は是非一読いただきたいです。いずれ国会図書館のデジタルに登録します。

引用してくださる場合は、順次必要に応じて改訂していきますが、とりあえず「木俣（2019）」としてくださるようお願いいたします。

6. 森とむらの図書室

宮崎県椎葉村から、絵本『りんたろうといのちの種』を御寄贈頂きました。

○ お知らせ

1. 環境文明 21 憲法部会シンポジウム予定 9月26日

話題：原子力発電について、チラシ pdf は添付します。

添付できないようですので、ご関心の方は下記をご覧ください。

<http://www.kanbun.org/2019/20190926kenpou/20190926kenpou.pdf>

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

木俣美樹男 Mikio KIMATA kibi20kijin@yahoo.co.jp

植物と人々の博物館／日本村塾 研究員塾生

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式 HP : <http://www.ppmusee.org>

個人 HP : <http://www.millettimplic.net>